

## 安全データシート

**製品名 塩化水素濃度計用吸収液, 等価液**
**作成日 2010年12月14日**

(50ppm, 100ppm, 200ppm, 250ppm, 500ppm, 1000ppm, 2000ppm

**改訂日 2015年11月25日**

 100mg/m<sup>3</sup><sub>N</sub>, 200mg/m<sup>3</sup><sub>N</sub>, 250mg/m<sup>3</sup><sub>N</sub>, 500mg/m<sup>3</sup><sub>N</sub>, 800mg/m<sup>3</sup><sub>N</sub>, 1000mg/m<sup>3</sup><sub>N</sub>)

### 1 化学名及び会社情報

化学品の名称	塩化水素濃度計用吸収液, 等価液 (50ppm, 100ppm, 200ppm, 250ppm, 500ppm, 1000ppm, 2000ppm 100mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> , 200mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> , 250mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> , 500mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> , 800mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> , 1000mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> )
会社名	京都電子工業株式会社
住所	京都市南区吉祥院新田二の段町 68
担当部門	品質保証部
電話番号	075-691-4121
FAX 番号	075-691-4127
緊急時の電話番号	075-691-4125
整理番号	GHS-0001

### 2 危険有害性の要約

GHS 分類	
分類できない	
ラベル要素	
絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	—
危険有害性情報	—
他の有害性情報	適当な保護衣、手袋及び眼／顔面用の保護具を着用する。 皮膚及び眼との接触を避ける。 眼と接触した場合は、直ちに多量の水で洗い医師の診断を受ける。

### 3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物(水溶液)
化学名(一般名)	塩化ナトリウム、フタル酸水素カリウム

成分名	含有量	化学式(構造式)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
塩化ナトリウム	下表	NaCl	1-236	7647-14-5
フタル酸水素カリウム	1%	C <sub>6</sub> H <sub>4</sub> (COOK)(COOH)	3-1342	877-24-7

各吸収液, 等価液の塩化ナトリウム含有量は次の通りである。

(単位: mol/L)

	50ppm 計	100ppm 計	200ppm 計	250ppm 計	500ppm 計	1000ppm 計	2000ppm 計
吸収液	1 × 10 <sup>-4</sup>	2 × 10 <sup>-4</sup>	5 × 10 <sup>-4</sup>	5 × 10 <sup>-4</sup>	1 × 10 <sup>-3</sup>	2 × 10 <sup>-3</sup>	2 × 10 <sup>-3</sup>
等価液	6 × 10 <sup>-4</sup>	1.2 × 10 <sup>-3</sup>	2.5 × 10 <sup>-3</sup>	3 × 10 <sup>-3</sup>	6 × 10 <sup>-3</sup>	1.2 × 10 <sup>-2</sup>	1.2 × 10 <sup>-2</sup>

(単位: mol/L)

	100mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> 計	200mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> 計	250mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> 計	500mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> 計	800mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> 計	1000mg/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> 計
吸収液	1 × 10 <sup>-4</sup>	2 × 10 <sup>-4</sup>	2 × 10 <sup>-4</sup>	5 × 10 <sup>-4</sup>	1 × 10 <sup>-3</sup>	1 × 10 <sup>-3</sup>
等価液	7 × 10 <sup>-4</sup>	1.5 × 10 <sup>-3</sup>	1.7 × 10 <sup>-3</sup>	4 × 10 <sup>-3</sup>	6 × 10 <sup>-3</sup>	8 × 10 <sup>-3</sup>

尚、濃縮吸収液の成分含有量は上表の5倍となる。

分類に寄与する不純物及び  
安定化添加剤

#### 4 応急措置

一般的な初期手当	事故が起きたときあるいは気分が悪い場合、直ちに医師の診察を受ける(できればラベルを見せる)。
吸入した場合	吸入による事故の場合は負傷者を新鮮な空気のある場所に移し、休息させる。 呼吸が弱かったり止まっている場合、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類すべてを直ちに脱ぐ。 皮膚に触れたら、直ちに多量の水で洗う。
眼に入った場合	直ちに多量の水で洗い流し医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに医師の診察を受け、医師にその容器又はラベルを見せる。 水で口内を洗う(その人に意識がある場合のみ)。 多量の水を飲ませる。 無理に吐き出させてはならない。
応急措置をする者の保護	救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどを着用する。

#### 5 火災時の措置

消火剤	火災の場合は霧状水、泡/耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素、乾燥砂を使用する。 周辺の状況に適した消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤	特になし
火災時の特定危険有害性	火災の際、熱分解又は燃焼により刺激性及び/又は有害性の強いガスが発生するおそれがある。 燃焼の際に生成する有毒な煙、蒸気又はガス: 塩素/塩化水素
特定の消火の方法	速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火作業は、風上から行う。初期の火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。
消火を行う者の保護	消火作業従事者は、適切な保護具を着用する。

#### 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	漏出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
回収、除去	少量の場合、乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸収させて、密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

封じ込め及び浄化の方法・ 機材	危険でなければ漏出源を遮断し、漏れを止める。
二次災害の防止法	床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。
<b>7 取扱い及び保管上の注意</b>	
取扱い	
技術的対策	(取扱者の暴露防止) 『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気装置・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気装置、全体排気を行う。
注意事項	密閉された装置、機械、又は局所排気装置を使用する。取り扱い は、換気の良い場所で行う。 屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。
接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照
安全取扱い注意事項	容器に過度の衝撃を加える、転倒させる、落下させる、又は引きず るなどの粗暴な扱いをしない。
保管	
技術的対策	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、 照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管条件	
(適切な保管条件)	直射日光を避け、密栓して冷暗所に保管する。
(避けるべき保管条件)	『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全な容器包装材料	ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレン等
<b>8 暴露防止及び保護措置</b>	
設備対策	屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化又は局所排気設備 を設置する。取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設 備を設け、その位置を明瞭に表示する。
管理濃度	作業環境評価基準(2005)に記載なし。
許容濃度(暴露限界値)	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
保護具	
呼吸器の保護具	空気呼吸器(SCBA)を着用する。 防毒マスク
手の保護具	状況に応じて、ゴム製などの不浸透性の手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡又は安全ゴーグルを使用する。
皮膚及び身体の保護具	状況に応じて、ゴム製の前掛け、長靴、保護衣などの不浸透性の 保護具を接触を避けるために着用する。
<b>9 物理的及び化学的性質</b>	
物理的状态	無色透明の液体
臭い	無臭
pH	4

融点・凝固点(°C)	データなし
沸点(°C)	データなし
引火点(°C)	データなし
発火点(°C)	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気=1)	データなし
比重(密度)	データなし
溶解性	本品自体水溶性
オクタノール／水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし

## 10 安定性及び反応性

安定性	予期される通常の保管及び取扱いの条件において安定と考えられる。
危険有害性反応可能性	酸化剤と接触すると反応することがある。
避けるべき条件	日光、熱、混触危険物質との接触
混触危険物質	強酸化剤、強酸剤、強アルカリ剤
危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素 及び水を除く)	塩素／塩化水素

## 11 有害性情報

製品としてのデータはない。参考として塩化ナトリウム、フタル酸水素カリウムの情報を記載する。

### 成分の有害性情報 <塩化ナトリウム>

(この物質の、ヒトの健康への影響に関するデータが不十分なので、最大の注意を払う必要がある。)

#### 急性毒性

経口	マウス	LD50 4000 mg/kg
(塩化ナトリウムとして)	ラット	LD50 3000 mg/kg

局所効果 眼及び皮膚を刺激する場合がある。

感作性 データなし

慢性毒性・長期毒性 データなし

がん原性 IARC 及び NTP のリストに記載されていない。

変異原性 データなし

催奇形性 データなし

生殖毒性 データなし

### 成分の有害性情報 <フタル酸水素カリウム>

(この物質の、ヒトの健康への影響に関するデータが不十分なので、最大の注意を払う必要がある。)

#### 急性毒性

経口	データなし
経皮	データなし

吸入(ガス)	データなし
吸入(蒸気)	データなし
吸入(粉じん、ミスト)	データなし
皮膚腐食性・刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	データなし
特定標的臓器・全身毒性-反復暴露	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

## 12 環境影響情報

製品としてのデータはない。

参考として塩化ナトリウム、フタル酸水素カリウムの情報を記載する。

成分の有害性情報 <塩化ナトリウム>

(この物質の、自然環境への影響に関するデータが不十分なので、最大の注意を払う必要がある。)

移動性	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
生態毒性	データなし
魚毒性	データなし

成分の有害性情報 <フタル酸水素カリウム>

(この物質の、自然環境への影響に関するデータが不十分なので、最大の注意を払う必要がある。)

水生環境急性有害性	データなし
水生環境慢性有害性	データなし

## 13 廃棄上の注意

多量の水で希釈した後、pHを中性に調整し下水に流す。

ただし、周辺環境や生態系に対して無害かつ安全に処理するためには十分な設備及び知識が備わっていないなければならない。処理作業に不安が伴う場合は、正式認可を得た処理業者に内容を開示した上で処理を委託する事が望ましい。

## 14 輸送上の注意

国際規制

国連分類(Class) 分類基準に該当しない

使用者が構内若しくは構外の輸送若しくは輸送手段に関連して知る必要がある、又は従う必要がある特別の安全対策

運搬に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

---

## 15 適用法令

毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
化学物質管理促進法	該当しない
消防法	該当しない

---

## 16 その他の情報

### 引用文献

製品安全データシート GHS-31334-1 5mol/l-塩化ナトリウム溶液(ナカライテスク株式会社)

製品安全データシート GHS-37274-1 フタル酸塩 pH 標準液(ナカライテスク株式会社)

### 記載内容の問い合わせ先

担当部門	品質保証部
電話番号	075-691-4125
FAX 番号	075-691-9536

---

※ 記載された内容は、一般的に入手可能な情報やメーカー所有の知見によるものですが、すべての資料及び文献を調査したものではなく、含有量、物理化学的性質、危険有害性などに関しては、いかなる保証をなすものではありません。従って、ここに記載した製品の取扱い又は保管時における事故に対して責任を保証するものではありません。又、新しい知見によって改定されることがあります。

※ 記載された注意事項は通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、十分な安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上